



未来を夢見て

2020/11/20 No. 47

修学旅行を終えて～晩秋の會津 6年生の満願成就～

11月18日(水)、遂に6年生の修学旅行当日を迎えることができました。幸い6年生は一人の欠席もなく136名全員参加し、2日間ともこれ以上ない好天に恵まれ、全行程美しい晩秋の會津の自然の中で進めることができました。

感染症対策でバスは8台。増便分の4台は大和町から支援を頂きました。私は6年生の主任の菅原先生から「校長先生は全車両に乗ってください」と「ご配慮」いただき、パーキングに着くたびに荷物を持って、違うバスに乗車させていただきました。それにしてもバス8台での移動は壮観な光景でした。(クラスが分散して寂しいかなあ・・・)とも思いましたが、乗車してみると荷物を横に置き、ゆったり座れるので、いつも感じるバス旅行の疲れを感じることなく過ごすことができました(実際バスで気分を悪くするお子さんはいませんでした)。

鶴ヶ城会館での買い物では、一人7,000円分のクーポンと菅原先生の「おめだず、もってねがらつかいkindぞ! (訳:君たち、もったいないからクーポンを残さず使いましょう!)」の事前指導の効果もあって、子供たちはたくさんのお土産を手にすることができました。また、レジでは時間はかかりましたが、子供たちはソーシャルディスタンスをきちんと意識して行動することができました。



「やりたいこととできることは違います。このような計画では、保護者の皆様も安心して子供たちを修学旅行にお子さんを送り出せないでしょう。もう一度最初から計画を見直し、必要であれば、2度目の下見を実施して計画を作り直してください。」1回目の検討会での結論でした。1回目の下見を実施した菅原先生、そして誰よりも修学旅行の実現を願っていた6年生のK君を担当する寺林先生は相当落ち込んだことかと思えます。そして、ここからが本当のスタートでした。

一方、今回の修学旅行を通して、私たち教師が「(子供たちのために) やりたい!」という思いをもつことがどんなに大切なことかも私は実感しました。そんな先生方の熱い思いが6年生の子供たちに伝わり、メリハリのある子供たちのあの姿につながったのだと思えます。



11月19日(木)、いつもは人気のない暗闇が迫る校庭には、たくさんの保護者の皆様と小野小学校の教職員の姿がありました。明かりで照らされたもみじ学級の窓には「6年生のみなさん、おかえりなさい」の掲示物。2日間の楽しい修学旅行でしたが、住み慣れた大和町、そして家族のもとに帰ってくると今まで以上にふるさとや家族への愛情が深まったことと思えます。

最後になりますが、バスの増便にご尽力いただいた上野教育長先生はじめ大和町教育委員会の皆様、何度も学校に足を運んでいただき、打合せに応じていただいたみちのく観光の泉課長様、子供たちのすてきな表情をたくさん撮っていただいたサンショウの大久保様、そして、今回の修学旅行の実現に全面的に御理解と御協力をいただいた6年生の保護者の皆様に心から感謝申し上げます。

皆さんありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

(文責:手代木)